



- 2. 総会並びに所長研修会
- 3. 第 62 回静岡県保育研究大会
- 4. 各分科会報告
- 12. 県保育研究大会に参加して
- 14. 令和 4 年度新規採用予定職員研修会
- 16. 新型コロナ対応アンケート結果

- 17. 北海道交流研修会
- 18. 新規採用職員研修会
- 19. 青年部会全体集会及び研修会
- 20. 令和 4 年度各研修報告
- 21. 支部だより
- 22. 委員会報告

令和5年度

静岡県保育連合会総会 並びに 所長研修会 開催

期日 令和五年六月二十二日
会場 静岡市民文化会館

令和五年六月二十二日、静岡市文化会館において一般社団法人として初めての「令和五年度 静岡県保育連合会総会並びに所長研修会」が、来賓に県健康福祉部少子化対策担当理事 瀬寄浩二様、県社会福祉協議会常務理事 高橋邦典様、県健康福祉部こども未来局こども未来課長 鈴木安由美様をお迎えして開催されました。

県保育連合総会では、富士市の中里保育園 青野園長が司会を務められ、規定により土山雅之会長が議長に選出され、総会議事が進行されました。



土山会長の挨拶では、当連合会が一般社団法人となったことで、今後はより対外的で組織的な運営ができるようにしていく旨の話がありました。

五月に新型コロナウイルスが五類感染症に分類され、少しずつ生活様式が変わる中、いまだにマスクを着用している方も多くいます。マスクを着けて子どもと関わることは、間違いないことは、間違いなく乳幼児期の子どもの成長に大きな影響を与えています。せめて、園にいる間だけでも、温かみのある通常のコミュニケーションをとることに、ためらいや不安を持たずに「子どもにとって大切なこと」を信じて保育をしてほしいと思います。



昨年は、県内においてバス送迎時の事故や不適切な保育といった出来事がありました。今一度、自分の園を見つめ直し、一人ひとりの自覚と園長としてのリーダーシップを大切にして取り組んでほしいです。

更に、少子化が進み、より質の高い保育、地域を元気にする保育の提供をしていくべきだといったお話をいただきました。

施設長研修では、馬場耕一郎氏（こども家庭庁保育制作課教育・指導専門官）をお招きし、「こどもを守る こども家庭庁の役割」という研修を行いました。

子どもたちの安全を守るためには、誰かがやってくれるだろうではなく、「自分が守る」といった高い意識で取り組むべきであり、園長が自ら、定期的に確認する必要があります。協力体制を築き、職員とともに取り組んでいくことも大切であるとのことでした。

また、「だろう」ではなく「かもしれない」といった意識を常に持ち、こども目線でシンプルに、継続的に子どものために安全対策に取り組むようにしていくべきだといったお話もありました。

令和五年四月より「こどもまんなか社会の実現のため」に、こども家庭庁が創設されました。社会全体がこどもをまんなかに取り組む中で、毎日こどもと一緒にいる私たちの保育も、こどもまんなかになるように、質の高い保育が求められると感じました。



第六十二回 静岡県保育研究大会

令和五年一月二十七日 浜松市

令和二年度からは開催時期を大きく変更し、初めて一月開催を企画した大会は「新型コロナウイルス感染症」の影響を受け中止を余儀なくされました。翌令和三年度は、直前まで集合型での準備を進めたものの、やはり感染拡大の兆候が見られた為、急遽WEBでの開催へと変更。感染状況の波に影響を受けてきた研究大会でしたが、ようやく落ち着きを見せ始めたこともあり、三年ぶりに対面の大会を開催することが出来ました。



大会が近づくに「コロナ感染や濃厚接触による十日間の療養期間と重なる」などから急遽欠席となってしまう登壇者も数名ありましたが、七二名からなる運営委員、実行委員、その他関係の先生方にご配慮頂いたお陰で参

加者にご迷惑をお掛けすることなく無事に進める事が出来ました。

冬の冷たい雨が降る一日となりましたが、三百六十四名の一般参加者を迎え、ピアノの伴奏にあわせて児童憲章が朗読され「アクトシティ浜松の中ホール」での開会式。土山運営委員長の挨拶に続き、開催地浜松市の山名副市長様、県健康福祉部より高橋こども未来局長様、県社会福祉協議会より高橋常務理事様からそれぞれにご祝辞を頂き、いよいよ分科会が始まります。今大会からは、来年七月に横浜市で開催される「関東ブロック保育研究大会」に第八分科会の議長をはじめ、第二分科会、第五分科会から各々の発表者を派遣しなければなりません。土山運営委員長、吉川副運営委員長も見守る中、午前中は研究と成果についての発表、午後は各分科会に参加された方からの質疑に応える従来の形で大会は進みました。活発な意見交換が行われ、関東ブロックの横浜大会へは、第八分科会議長の沼津市立大平保育所・高橋万寿美先生、第二分科会発表者は静岡市立横砂こども園・渡辺裕梨先生、第五分科会発表者は島田市五和保育園・山口学世先生を派遣することとなり、閉会式では今大会の研究成果を広く内外に伝えるための「大会宣言」が採択されました。



令和五年度には新型コロナウイルス感染症の類型が下げられる見通しとなっています。「こどもまんなか」社会の実現のため、「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」更なる質の向上を目指し、大会成果を保育に生かせるよう努めたいと思います。今大会の盛行に関わって頂きました多くの皆様に、心より感謝申し上げます。



第一分科会

テーマ 【新たな時代の保育実践
～すべての子どもにむけて～】

発表者 ①南伊豆町立南伊豆認定こども園

主任保育教諭 外岡 裕美

②牧之原市 萩間保育園

保育士 中嶋 綾美

③掛川市 掛川聖マリア保育園

保育士 村田 幸

議長 御前崎市 やまもも保育園

園長 松林 洋子

助言者 静岡県立大学短期大学部

部長 永倉みゆき

記録者 御前崎市 やまもも保育園

副園長 藤田 裕子

発表(一) 人との関りの中で、のびのびと自分
らしさを発揮する子の育成

南伊豆認定こども園は、園目標「きらきら笑顔 共に歩む 南崎っこ」の意味する事は何か見直す事から始め、今の子どもの姿から課題となる事を話し合い、研究構成を決めていった。子ども達が主体的に取り組む為の環境構成と援助の工夫、人との関わりが深まる様な保育の工夫に取り組む事により、意欲や粘り強さ、関わり合って遊ぶ楽しさを味わう等、自分らしさを伸び伸びと発揮する子の育成に繋がった。又、保育者は肯定的な幼児理

解に基づいて、環境の工夫や適切な援助をできる保育が展開されるようになり職員の質の向上も実感できた。

発表(二) 「これやりたいな」

～主体性の芽を育む

保育を目指して～

萩間保育園では「明日も保育園へ行きたい」「今日もこれで遊ぼう」とわくわくしながら登園できるようになる事を目指して研修を行った。取り組みの一つとして、各歳児公開保育を通して保育を見合った。自分の保育を振り返る事により、声掛けのタイミング、環境構成等を学び、それを保育に生かす事で子ども達が自分で遊びを考えたり、発展させたり主体的に遊ぶ事ができるようになってきている。また、一人一人の子どもの理解について職員間で共有し、同じ思いで保育をする事で、園全体のチーム力や保育の資質向上に繋がった。

発表(三) 子どもたちとともに成長する保育を
目指して～ことばを受け止め、心に
寄り添う～

スマホやタブレットの普及による情報量の増加、コロナ禍による生活の大きな変化の中、子ども達の「語彙力の低さ」「コミュニケーション力の低さ」に着目した。実態を把握する為にアンケートを実施したところ「言葉遣い」において保護者と保育者の思いの違いがある事に気づいた。園からの「おすすめ絵本」

の発信は保護者支援にも繋がった。「あったか言葉」と「ちくちく言葉」について子ども達と正しい言葉遣いについて取り組みや、「エピソード記述」により子ども達が発する言葉の背景にある「心」に寄り添う事で子どもの洞察力が深まった。

助言者より

「新たな時代の保育」というとICTやタブレットの活用を想像しがちだが、時代が変わっても大事にしなければいけない事に取り組んだ視点が良かった。「主体的な子ども」のイメージはそれぞれ違う。保育者も子どもが世界に入っていく自分を解放して遊ぶ事が大事である。職員一人一人の根っこにある保育観を共に語り合える風通しの良い保育園にする事が園長・副園長の大切な役割と言える。自分は何を大事にして保育をしているのか考えるきっかけになれば良い。



第二分科会

テーマ【配慮を必要とする子どもや家庭への支援にむけて】

発表者 ①裾野市立深良保育園

主席保育士 渡辺 真紀

②静岡市立横砂こども園

保育教諭 渡辺 裕梨

③磐田市 聖隷こども園ここのとり

富丘

保育教諭 佐藤 未来

議長 富士市 すみれ認定こども園

園長 後藤 恭佑

助言者 静岡大学教育学部

教授 香野 毅

記録者 富士市 すみれ認定こども園

保育教諭 川口 友里

発表(一) 家庭での子育てを支え子どもの豊かな心を育む取り組み

すべての家庭に共通している、メディアとの付き合い方に着目したところから研究を始めた。ノーマディアチャレンジやペアレントプログラム研修の受講などから、家庭で子どもと関わる時間を大切にしてもらったり、子どもを肯定的に捉えて認知や見方を変えていくような支援方法を学んだ。目に見えた成果は分かりにくくとも、日々の関わりを大切にしながら、くり返しの支援が必要で

あると感じている。

発表(二) 子育ての伴走者になるための保育者の役割と個別支援計画(サポートプラン)

保護者に寄り添う支援をするための、保育者の役割を考えながら研修を重ねた。園からの要望を伝え、保護者に受容してもらおうとする支援のかたちではなく、保護者の思いを聴いて寄り添いながら、子どもの将来に見通しが持てるような支援を目指していくことが大切だと学んだ。保護者との信頼関係が深まり「子育ての伴走者」としての役割ができる、子ども自身の園生活への安心感や、成長発達につながっていくことから、このような支援が大切になっていく。

発表(三) 一人ひとりを理解し、家庭支援につなげるために

子どもと保護者それぞれの、ありのままの姿を受け入れることを支援の土台としていく。個々の家庭に合わせた支援の方法を考えて園内で共有すること、家庭で担いきれない部分を園が子育てパートナーとして共に考え、必要に応じて専門機関と連携をとっていくことが大切である。保育者一人ひとりが専門職として、子どもと家庭、それぞれに合った配慮や支援を行う職務があることや、自身の専門性を磨いていくことも求められていることを意識していく。

助言者より

支援を考える際、事例検討をすることはとても大切なことと言える。また、その記録は子どもと保護者のものだと考え、教育、医療、福祉等それぞれの機関で共有できるような形のものが見えやすい。療育などの短時間の関わりより、日常の方が大切になるので、ペアレントトレーニングの必要性を考えていく。保育者としては、自分以外の見かたを受け入れ、自分がどう見られているかも意識してみる事が大切となる。



第三分科会

テーマ【保育の資質向上を図り、保育現場の魅力を発信する】

発表者 ①沼津市 浮島保育園

園長 望月 裕巳

②静岡市立有度北こども園

園長 尾上 浩子

③浜松市 そらいろこども園

主幹保育教諭 礪川三知代

議長 静岡市立大谷こども園

園長 渥美 郁子

助言者 常葉大学保育学部

教授 山本 睦

記録者 静岡市立川原こども園

園長 村上 愛

発表(一) 保育の見える化をめざして

浮島保育園では「職員への見える化」と「保護者や園児への見える化」に取り組んだ。職員会議では少人数の部会を設定し、内容をシートにわかりやすくまとめた。結果を会議で共有することで時間の短縮や保育の充実、事故防止に繋がった。またドキュメンテーションを作成し、写真を使って保育の様子や十の姿を具体的に知らせる工夫や散歩のコースを絵や動画で説明、配信することで保護者への関心が高まっていた。価値観の共有化や周知の方法など今後も取り組みを続けていく。

発表(二) 保育の資質向上を図り、保育現場の魅力を発信する

保育者の資質向上のため、各園で公開保育を行っている。園内研修の充実を図るため外部講師を招き、保育の検証を行い、事後研修では良さの見つけ合いや課題に向けてのアイデアの出し合いを行った。参加する側は課題を持って他園の公開保育を参観するよう園長がアドバイスしたことで、保育者自身の学びとなりその後の保育に活かされている。今後も公開保育を行い、他園の良さを知るとともに自園の良さを再確認し園同士のつながりを積み重ねていき、保育の質の底上げを図っていく。

発表(三) 伝える、伝わる関係づくりをめざして

伝える、伝わる関係づくりが保育の質の向上につながるのではないかと考、研修を進めた。一年目会・サポーター会・パート会・月案会議など意見を出しやすい人数や、年齢や職種などが近い職員で会議を持ち進めていった。互いの思いを伝えあい、困っている職員に寄り添い相談できる関係づくりができ、円滑なコミュニケーションが取れるようになった。職員間でポジティブな言葉が増え子どもたちにも良いお手本となる関係作りが、チーム力を高め資質向上につながっている。

助言者より

イギリスではポートフォリオが評価の手法

である。個々の育ちや集団の育ちを保護者や同僚に伝え、子どもの深い思考や協同的な学びに繋がっている。二歳からアクティブラーニングのための基盤づくりに取り組み、子どもの「自分で問いを立てる力」を育むことを目標としている。今後を生きる子どもには、創造的思考を持ち、自分で問いを立て探求していく人間に育てていくことが大切になる。一方、園長は組織として評価基準に一貫性を持ち、園の個性化やカリキュラムマネジメントを意識していくことが大切となる。質の高い保育は、家庭教育への介入と小学校との接続をどのように保障するかが課題となる。



第四分科会

テーマ 【地域の子育て家庭への支援の
充実にむけて】

発表者 ①沼津市 幼保連携型認定こども園
片浜桜

保育教諭 西村由紀子
②藤枝市 藤枝聖マリア保育園
保育士 菊川 郁野

③浜松市立中ノ町保育園
園長 吉永あゆみ

議長 磐田市 いずみ保育園

助言者 静岡福祉大学子ども学部
教授 永田恵実子

記録者 周智郡森町 ときわ保育園
園長 萩野 洋子

発表(一) ICTの活用による家庭支援の変化
及び地域の子育て家庭への支援の在
り方

ICT導入後、保護者と職員にアンケートを取った。改善点として園だよりを紙媒体でホールに掲示。良い点は外国籍の保護者写真を見る事でより理解を得られる・園児出席の共有を迅速に計れる・感染予防につながる受診の呼びかけ等高満足度が得られた。園に併設の子育て支援センター「かるがも」が地域の子育て交流の場になっている温かなエピソードを紹介。ご老人の方がベビーカーに乗せた赤ちゃんを、ニコニコと園を見ていた。支援員が声を掛け、申し込みの誘いをしたところ後日、申し込みがあり喜んで参加をされた。お話によると、赤ちゃんはひ孫で、病

気の祖父母に変わり子守りをされているとの事。『本当に救って貰いました』と感謝された。地域の中で曾祖父母や祖父母が幼子の子守りをする家庭がある事を踏まえて、『祖父母への啓発を増やして地域への支援の充実を図っていきたい』と、支援が必要な家庭への積極的な園の姿勢に全ての人が耳を傾けていた。

発表(二) 子どもの見方・関わり方

保護者との共通理解に向けて保育士自身のこどもへの関わり、一 環境の見直し 二 保育の可視化 三 保護者に向けての発信の研究内容をドキュメンテーションに取り入れて進めてきた。保育実践に関わる研究委員として各クラス一名ずつ選出し、『幼児期の終わりまでに育ってほしい十の姿』を基に保育士自身学ぶ場や保護者への発信方法、どう書いたら見て貰えるのか?どう伝わったか、揭示の仕方は: 揭示した後の保護者の反応から、文字を大きく・子どもの吹き・伝える文章の簡潔さ等の改善をした。子育ての悩みに応じたアドバイスや手立て・食事や睡眠の悩み等アイデア満載でスツキリと見やすいレイアウトのドキュメンテーション。栄養士による「おやつ役割」の講話や人気のレシピの紹介を通した保護者との共通理解に繋げ、子どもの育ちや保育が子育ての参考になる研究内容と、子どもを見直すという良い方向に向かった事が感じられた。

発表(三) 浜松市子育てサポートの活用 親子
が安心して過ごせるために

市内二十五か所に、市から補助が出て開設している「子育て支援ひろば」がある。浜松市子ども家庭部子育て支援課から発行されている【はますくファイル】は、母子手帳と同

時に配布されているが、認知度が低く母子手帳ほど活用されていない。子育て支援のスペシャリストの意見等が盛り込まれているのに『活用しないのはもったいない』『やらないか!』と保育園で活用の取り組みが始まった。園内研修・クラス懇談会で活用する機会を作り、まずは保育士自身が学ぶ事でスキルアップを図った。園だより、一「はますくファイル」からちょこっとコラム」のコーナーを掲載し、保護者に「はますくファイル」の内容を知らせていった。また、『ドキュメンテーション』を活用し、子どもの姿の見える化を取り入れていった事で子育ての参考になっている保護者が増えた。発想の展開が良い結果に結びついたと感じられた。

助言者より

実習生の担当もされ『コロナ禍』で六月の実習が十一月に伸び対応に迫られた事、『今の実習生は、学校と園で育てていかなければならない現状を知って頂きたい』と話された。R四年度の保育要領の中に「ICTを保育の中に取り入れる」と国からの通達があるが、三園がそれぞれ工夫した『ドキュメンテーション』を作成している。

映像化した記録「見える化」は、日々の保育の振り返り・他の人の情報(違った見方)を知る等保育士自身が得る事も多く回を重ねる事でレベルアップに繋がる。三園の熱心な取り組みは、保育の質を高める事になると実感できた。



第五分科会

テーマ 【子どものより良い育ちと安全・安心の環境づくりにむけた関係機関とのネットワーク】

発表者 ①三島市 恵明キッズフロンティアレジン

園長 杉村 太輔

②島田市 保育所型認定こども園

五和保育園

園長 山口 学世

③菊川市 ひがしこども園

園長 浅井 明代

議長 富士宮市 富丘こども園

副園長 足立 和俊

助言者 常葉大学健康プロデュース学部

准教授 中村 俊哉

記録者 富士宮市 富丘こども園

主幹保育教諭 川口 敦子

発表(一) ウイズコロナの中で待ったなしの子育

ち環境、社会の役割 考察から実践へ

我が国の新型コロナウイルス対策が始まった当初、原則開園がもとめられる保育現場では手探りの感染対策から始まった。マスクの着用、昼食時の黙食、行事形態の変更など、保健所や市担当課との連携を通じた感染防止対策をしていく中で、いかに子どもたちの育ちを保障していくかが課題となった。特に保護者への丁寧な説明をこまめに行うことで、

感染対策と保育活動の両立への理解がすすみ、保護者との信頼関係がより深いものとなつていったことを実感した。

今後こどもの育ちを社会全体で整えていくためにさらなる各機関との信頼関係を構築していくことの重要性を確認した。

発表(二) 島田市のより良い小学校への接続の

為に

小学校就学にあたり不安を持っている保護者と子どもたちの育ちの視点を共有するため「幼児期の終わりまでに育って欲しい十の姿」について理解を深めていくことを市内施設長会合同で取り組んだ。

まずは「十の姿」を各園独自の「木の姿」で表現し園内に掲示、そして保護者説明会を開催するなど周知を図った。結果、保護者から園での遊びを通じた学びと就学後の学習のつながりを知ることができて安心したという意見を多くいただき、家庭でも子どものステキな姿に眼差しを向けることにつながった。

さらには学校教育課及び市内校長会と連携し、この「十の姿」を共有していく試みを始め、小学校との共通理解を持つことで園と保護者、学校の三者で子どもの育ちを深めていくことを続けていきたい。

発表(三)

コロナ禍にあつてもひとり一人により良い就学となる関係機関との丁寧な連携と、こどもの安心・安全を守るための地域の様々な機関とのつながり

就学支援を必要とする子どもが年々増加傾向の中、行政機関及び医療・療育機関との連携は必須である。とりわけ市の子育て応援課の園訪問は重要な役割を担っており、定期訪問は年少児から始まり、未満児についても随時園訪問し、「迅速且つ丁寧な対応」をキーワードに各機関との繋がりを重視している。小笠東地区の発展と住みよいまちづくりを目的とした「コミュニティセンターくすりん」を拠点にした様々な地域団体、地域住民との交流を盛んに行い、地域の方々が子ども園のファンでありつづけていただけることで、子どもたちの安全が守られていることを認識した。今後も地域の活性化のために、子どもたちの元気を届けていくこと検討していく。

助言者より

全ての発表者の各園が、コロナ禍で外部との交流が制限されている中であつても試行錯誤しながら「子どもの育ち」を主軸とし、各関係機関との連携を行っている点を高く評価した。特に共通しているのは保護者への丁寧な対応という点である。参加者の発表に対する意見交換も盛んに行われ、各園の感染対策と子どもたちの育ちのための関係機関との連携等意見交換ができたすばらしい分科会であつた。



第六分科会

テーマ【家庭や地域との連携による食育推進】

発表者 ①富士宮市 小泉こども保育園

主幹保育教諭 佐藤 美幸

②浜松市 ひまわり保育園

栄養士 渡辺 美和

③静岡市立中田こども園

副主任保育教諭 大石真由香

議長 静岡市 一番町保育園

園長 海野美代子

助言者 NPO法人こどもの森

理事長 吉田 隆子

記録者 静岡市 麻華こども園

園長 中原 美華

発表(一)

子どものつぶやきに耳を傾け「なぜかな？」そして「やってみよう」と米栽培、味噌作り、茶摘みを体験。すると、こどもが食に関心や意欲が高まり、創造力や探求心・協調性が育まれた。また、保護者が給食を食べる「ひだまりランチ」を企画したり、保護者に嗜好調査をしたりすることで、子どもが好き嫌いのことが減ったり、食べる量が増えたといったように子どもに変化がでた。更に、給食室の職員と保育士が情報交換をすることも大切だということに気づいた。

自然豊かな環境の中で、子どもとともに築

いた食育活動は、園の特徴を生かしたものであり大切にしていきたい。

発表(二)

給食で食事をする子どもの姿から「正しい姿勢やマナーを身に付けてほしい」と願い取り組み始めた保護者アンケートを実施してみると、保護者自身が正しい姿勢を知らない実態に気づき、園から正しい姿勢をすることの大切さや具体的な方法をお便りを介して発信した。すると、家庭でも園でも正しい姿勢が習慣化され、食への意欲が高まったり、食べこぼしが減ったり、更に体感がよくなったという結果となった。

今後は、乳児期から正しい姿勢を意識して取り組み、個人の発達に合わせた環境作りを継続していきたい。

発表(三)

食べることに意欲がない子どもがいることに気づき「食べたい」意欲を持つてほしいと願い、人（地域や家庭）とのつながりに着目して食育活動に取り組んだ。

給食職員がだし汁を子どもに試飲させたり、地域の方と野菜栽培をしたり収穫をしたり、友達とごっこ遊びを楽しみながら配膳をする等、人とのつながりや食に関する体験は食べる意欲につながった。また職員研修を深めることだけでなく、保護者アンケートを通して課題を明確にし、実態に合わせた揭示物（人気メニューレシピ配布、クッキングの様

子等）を作成することも効果的であった。

助言者より

子どもの表情を読み取りながら実践を記録して取り組んだことが素晴らしい。今後も家庭や地域との連携が必要であり、保育所保育指針を保育士だけでなく全職員が理解して取り組んでいきたい。

食べたい気持ち、食欲が現れる場合は食卓であり、共食（人と関わりながら食べる）が原点である。社会性や生活を学ぶ場である食卓は心地のいいものになりたい。

食事の正しい姿勢やマナーは幼いころから取り組むべき。健康面での影響や人への感謝の気持ちがある。マナーには昔からの言い伝えがあり、人への配慮や思いやりのために意味があることを意識したい。

今後はSDGSを視野に入れて食育を考えたい。



第七分科会

テーマ 【保育の社会化にむけて

～保育の営みをいかに社会に

発信するか～】

発表者 ①長泉町立北こども園

園長 新村あかね

②静岡市 竜南こども園

園長 太田嶋俊彦

③浜松市 聖隷クリストファーこども園

主幹保育教諭 玉永真奈美

議長 浜松市 なかざわこども園

園長 細倉 泰生

助言者 常葉大学短期大学部保育科 教授 鈴木久美子

記録者 浜松市 なかざわこども園 主幹保育教諭 位田 愛子

発表(一) 幼児教育カリキュラムの作成に伴って

町立七か園は小学校への円滑な接続を目指し、独自の幼児教育カリキュラムを共同で作成した。留意点①誰が見てもわかる②町の子どもが同じ教育を受けられる③小学校への円滑な接続を考えたアプローチカリキュラム④町独自であること その際、①様式や方向検討②文章・デザインの工夫。その後教育長への報告・指導を経て完成。教育アドバイザー

の協力を得、上映会を小中学校の研究論文発表会や連絡会にて行った。一般に向けては、町HPに動画の掲載、小冊子の役場設置、入園説明会で詳細説明を行った。成果 ①一般の方に、遊びが学びの基であることが伝わった②小学校の先生が関心を持つ契機となった③職員が成果を実感し自信を得ることができた。今後も時代に応じた保育の可視化、発信を行っていきたい。

発表(二) 保護者・地域・学生に向けてICT活用の事例から

需要の高まるICTの活用について検討した。①方法 アンケートによる把握。②効果 行事、保育の配信等コロナ禍でも保護者への情報共有への有効性、迅速な情報伝達、午睡チェック、登降園管理等の安全管理の向上③課題 ICTのインフラ整備や予算、職員の経験不足による業務負担、求人効果、情報管理、漏洩等のセキュリティ対策。④導入二園視察 様々なシステムの実践例を共有した⑤対策 自治体への予算及び専門的な支援要望。各園が保育の営みや理念を可視化し、社会資源としての重要性を積極的にアピール。人と人を繋ぐ手段としてのICT活用を今後模索していく。

発表(三) 保護者や地域を巻き込む保育実践で保育を可視化する

園では一方的な発信のみでなく、保護者や地域を巻き込み共に保育を創り出す活動を継続してきた。①サマーフェスタ 園の保育目標を保護者会でも共有し、子どもたちに伝えたいこと〴〵を実現する場になり、保育内容、子育ての楽しみを家庭と共有した。②園庭プロジェクト 講師・保護者と協働の「子どもが自ら育つ園庭整備」。教育の価値観を共有する場となっている。③森作り 学園生徒、地域や保護者の手を借りて自然豊かな森を作っている。

園からの情報発信を経て地域の方がアクションを起こすことが子育ての社会化ではないかと考える。

助言者より

日常の保育業務が実は社会発信であることを確認し、様々な実践報告を経て「発信」自体が目的化していないかという課題も生じた。発信にはプロセスがある。保育の意図を理解した上で何を伝えたいかを整理・言語化し、マルチな選択を取る。各園の発信に至るプロセス・取り組みが、保育の質の向上・保育の社会化になっていくことを願っている。



第八分科会

テーマ【公立保育所・公立認定こども園等の使命と地域社会での役割】

発表者 ①富士市立なかしま保育園

園長 浦田 直美

②川根本町立三ツ星保育園

園長 中田 泰子

③袋井市立笠原こども園

園長 澤部奈央子

議長 沼津市立大平保育所

所長 高橋万寿美

助言者 静岡英和学院大学人間社会学部

静岡福祉大学子ども学部

非常勤講師 徳浪 芳江

記録者 沼津市子育て支援課

主査 廣川 益子

発表(一) 教育・保育施設の連携と

保育の質の向上に向けて

持続可能な社会の作り手となる富士市子ども達の健やかな育ちと学びに向けて、行政主導の元、公立教育保育施設再配置計画を策定し、施設数の適正化と再編等の方策及び就学前の教育・保育の質の向上を目指す取り組みが始まっている。公立幼保それぞれ長年の研修を通して、大切にしたい保育の視点は、互いに同様であることに気づき、顔が見える研修体制の導入により、主体的・対話的な深い

学びの実践ができている。公立園が発信源となり、地域や富士市全体の教育・保育の質の向上を目指していきたい。

発表(二) 小規模の良さを生かした

川根本町の保育

出生数の減少、同学年の少人数化により、家庭的保育を大切にしながら、異年齢児保育、民公保育園交流等を通して、園児は、優しさ・気遣い・思いやりの気持ちが育まれている。町が掲げる「一人一人を大切にする幼児教育、保育、子育て支援」に向けて、公立私立保育園合同研修会等を重ね、子どもの理解と保育の質の向上と人材育成に力を入れ、地域の子育て支援の基盤を充実させていきたい。また、私立幼稚園との交流や、教育機関と蜜に連絡を取合い、幼小保の架け橋プログラムも積極的に取組んでいく。

発表(三) 地域に根付いた園づくり

子育て支援拠点施設機能を兼ね備えた、公立認定こども園として、社会や地域のニーズに込められるよう、地域や行政と連携し、子どもの将来を見据えた教育・保育活動を実践している。特別支援教育では、こども支援室や幼児教育センターとの連携により、早期対応や個別面談、園訪問等、専門機関との連携強化と長期的な支援体制が構築されている。保育の見える化を図るためにICTを活用し、保護者の園理解や安心感を得られた。今後も、公立園の強みを活かし、時代のニ

ーズに合わせた、保護者支援、育児支援に力を入れた運営に努めたい。

助言者より

幼稚園、保育園、こども園、公立、私立、施設の形態、地域に関係なく、すべての子どもが格差なく学びを得られることが大切。地域保育をどのように高めていくのかを行政に働きかけ、私立幼保と共有をしていく。幼保小の接続を考える前に幼保接続、民公接続から始められるよう公立園がリーダーシップを図っていく必要がある。

公立園は、行政機関であり、地域住民に対する義務を果たす使命がある。地域ぐるみで子どもに関わることは住民を育てることに繋がる。



県保育研究大会に参加して

第一分科会

「新たな時代の保育実践」すべての子どもにむけて」をテーマとした三園の実践報告を聞きました。『新たな時代』を連想させるメディアを取り入れた実践ではなく、新たな時代に生きる中で生じる課題から、言葉や主体性を育む事の大切さに焦点を当てているという点が三園に共通していました。現状の課題に焦点を当てる事は、子ども達を取り巻く背景や、保育者としての自分の関わり方を振り返る事に繋がり、目の前の子ども達の姿を捉え、願いを持って保育していく大切さを改めて感じる事ができました。「子どもが主体的である為には保育者自身が主体的である必要がある」という大きな学びを、今後の保育に活かしていきたいと思います。

富士市立柏原保育園 渡邊彩乃

第二分科会

各園・地区での取り組みの発表を聞かせていただき、配慮を必要とする子どもの内面への理解はもちろん、保護者の心に寄り添いな

がらの家庭支援が大切であると感じました。

揺れ動く保護者にどう寄り添っていか。サポートプランや共有シートを活用し、職員の共通理解を含め、医療・福祉・教育が一体となって子どものサポートをする体制を整えていくことが大切であり、そのためには日々の保育の中で様々な工夫が必要です。事例検討や特別支援・全体支援の在り方を改めて学ぶとともに、新たな気づきとなりました。各園や助言者の先生方のお言葉を基に、自園でも取り組める形を探り、寄り添う保育を今後心掛けていきたいと思っています。

バディ保育園 川上 由理

第三分科会

「保育の資質向上を目指す」というテーマで発表を聞かせていただきました。どの園も素晴らしく、魅力的な保育の取り組みを行っていました。なかでも「園内研修」への取り組みは、限られた保育時間のなかで時間を作り、少人数で行うなどの工夫をこらしており、自園でも研修の内容や方法をどう進めていくか悩んでいたの、とても参考になりました。

少子化が進み、保護者が園を選ぶようになってきた昨今、いかに自園の魅力を発信していくかがこれからの課題になってくると思われます。保育者一人ひとりの資質を磨くことで、園の個性や魅力に繋がっていく。そうして作り上げた園を地域や保護者に発信して行けたらと思います。

認定こども園西方こども園 中村 その枝

第四分科会

「地域の子育て家庭への支援の充実」をテーマとして発表を聞きました。コロナ禍でなかなか地域とのつながりが希薄化する中で、発表されたどの園も自分たちの園の魅力と保育を可視化しドキュメンテーション等を外部にどんどん発信していくことで、地域や保護者とのつながりが強くなり子育て支援の拠点となっていくことで、子育ての不安や孤独感等がどんどん解消されるような工夫をしていると強く感じました。自分の園もそうですが地域・保護者との情報共有をすることで保育所・認可こども園等が子育て支援拠点となつて地域・自治体と協力してみんなで子育てができる環境づくりができたらいなと思います。

いさみ保育園 秋山 勇人

第五分科会

自園でも子ども達一人ひとりに願いをもち、日々丁寧に保育を行っています。その積み重ねが途切れてしまわないよう、園から保護者、学校、関係機関へと繰り返し伝えていきたいと思いました。

小学校で行われている「スタートカリキュラム」について、園としても知っておく必要があると思います。しかしこの機関においてもニーズが多様化し、手が回らないという状況です。「子どもの最善の利益」を考えた時に優先すべきもの、続けていかななくてはならないものの選別をしていく必要があると感じました。

認定こども園西方こども園 牧野 美保

第六分科会

子ども達が普段の生活の中で不思議に思ったことや感じたことに寄り添うことの大切さを改めて感じました。日常的な地域の方との関わりがあることで、子どもが興味を持ったことを手紙で相談する等のやり取りや、収穫した野菜や苗を手紙のお札に届けに行くことで、こども達が主体的に食に関わろうとする気持ちや責任感、感謝の気持ちが育まれている

て、素敵な取り組みだと思いました。

幼児期は食事摂取が受動的であり、保護者、保育者の対応が重要となります。生涯の食の基礎が培われていくという認識を再度持ち、保護者が食育に関心を持てるような掲示の工夫や、親子で興味を持てる食育の取り組みを考えていきたいと思いました。

たかつか光こども園 中澤 葵

第七分科会

八年前この分科会にて「地域とのつながり」「家庭との連携」という視点からの発表をしました。様々なご意見をいただき、「保育の社会化」についてずっと考えてきました。

今回「カリキュラム」「ICT」「保護者を巻き込んだの行事」三つの視点での発表をお聞きする中で、「保育の社会化」とはただ発信するだけではなく、私たちの日々の保育の営みを「可視化」し、結果ではなく「プロセス」を発信していくことが大切である。そのため、日々の保育の営みに自分たちがどう向き合い、語り合っていくべきか、再確認できました。これからも「保育の社会化」とは：足元を見据え、考えていきたいと思っています。

よこすか ぬく森こども園 鈴木 麻樹

第八分科会

各市町の現状によって少子化、統廃合等の問題に多少の差はあると思いますが、どこでも起こり得る課題だと思っています。課題をデメリットとして捉えず、それぞれの市町の特徴を活かして、前向きに取り組んでこられた三園の研究発表を聞くことができ、改めて、公立園の存在意義を考えさせられる機会になりました。

常に子どもを真ん中として考え、行政との連携、特別支援教育の充実、親しみやすい園づくり等、地域のニーズに応えながら、子育て支援の拠点園としての役割を果たそうとする意識の高さも感じました。今後、私たちも子ども達の健やかな育ちを見守り、支援の輪をつなげながら、子育てしやすい町づくりを市全体としてめざし、取り組んでいきたいと思っています。

静岡市立富士見台こども園 前田 範子



新規採用予定職員研修会

東部支部

月 日 令和五年二月十六日～十七日
会 場 プラサヴェルデ
参加者 七十一名

今年度もコロナ禍での新規採用研修会の開催となり、座学のみでの研修となりました。

講義①では、文京学院大学児童発達学科教授 朴淳香氏により、事故防止及び安全管理というテーマで講義をしていただきました。子ども達が健やかに過ごすための環境設定やルール、成長の速度による安全管理の違い等、様々な角度から子ども達を守る事に繋がる事故防止について学ぶことが出来ました。

講義②では、有限会社アップハートの勝又ひでこ氏に「社会人として一番大切なこと」人間関係と服務接遇」というテーマで講義していただきました。四月から社会人になる研修生は、今後は組織人としての振る舞いが求められることや、人と人が関わる仕事は第一印象が大切になってくるということを学び、その為の基本は笑顔での挨拶であると判りました。

講義③では、静岡県保育連合会の土山雅之会長より「保育所・認定こども園の使命と役割」というテーマで講義をしていただき、静岡県保育連合会の活動や役割について学びま

した。現在の保育業界は待機児童よりも少子化による定員割れの問題が大きくなってきており、今後各園において保育の質の向上が求められていることがわかりました。

講義④では、県保育士会会長 吉川慶子氏より「保育者としての役割」というテーマで保育者としての服務規律や危機管理意識、コロナ禍における感染対策と保育の工夫、子どもの権利条約、保育者の倫理観等について深く学ぶ機会となり、倫理観を高めるために先のことを見通す事や他者への理解が必要になることを学びました。

講義⑤では、NPO法人浜松こどもとメディアリテラシー研究所の長澤弘子氏に「SNS利用時の倫理的な判断と行動の重要性について」最近のネット・ケータイ・スマホ」というテーマで講義をしていただきました。インターネットのメリット、デメリットについて等を改めて知る機会となり、社会人としてSNSの使い方には十分気を付けよう、と考えさせられる講義になりました。

最後は実行委員長が研修生からの質問、不安などについてアドバイスをしたり、グループトークを通して様々な思いを共有する時間を設けました。

今回集合型の研修が出来、研修生同士が交流出来てよかったと思います。講師の先生方やご協力していただいた皆様のおかげで新採研が無事に終了できましたことをここに感謝

申し上げます。

実行委員長 緑ヶ丘保育園 内藤朝日

中部支部

月 日 令和五年二月十四日～十五日
会 場 静岡県立焼津青少年の家
参加者 七十二名

今年度は焼津青少年の家にて、宿泊での研修を行うことができました。

講義一は、県保育連合会副会長の私、海野美代子が、「保育所・こども園の使命と役割」というテーマで保育所の法的な位置づけ、社会的な使命についてお話ししました。また「不適切な保育」という言葉が、一人歩きをして、これから保育者を目指す学生の心を不安にしているかと思う、日常の保育ドキュメンテーションを展示したりして気持ちや和らぐようにと準備しました。

講義二では県保育士会会長、吉川慶子氏より「保育者としての役割」というテーマで保育者としての服務規律や危機管理意識、コロナ禍における感染対策が子どもに与えた影響や、子どもの権利条約等についてご講演いただきました。

午後は以前この研修に参加し、現在就職一年目のだきしめこども園の望月紗理奈先生、五年目の明星保育園の渋谷風香先生お二人に実際に保育に関わっての体験談を聞かせていただきました。

西部支部

その後は明星保育園の櫻井英世先生の手遊び・歌遊びの実技指導がありました。感染対策も考慮しながら久しぶりの集団遊びで、皆緊張もありましたがすぐに心ほぐれ、櫻井先生の真似をしながら手遊びなどに取り組み、笑顔も増えました。

そのあとは、屋外でチャレンジャリー、こちらも種目内容を検討し、グループごとで競いました。一日目の締めくくりは、現場からのアドバイス。班ごとの指導者（実行委員の園長・主任）によるミーティングで、保育者として働くことの質問や不安なところを話し合いました。今回、宿泊施設のお風呂が使えず、地元の温泉利用となりましたが、これが緊張をほぐし、疲れをとる良い時間となりました。二日目は、駿河こどものとも社取締役 高林快晴氏より「子どもと絵本」というテーマで絵本の楽しみ方を、お話し頂きました。まず、大人が絵本の世界を楽しんで子どもと共有していくことが伝わりました。

土方良子先生によるご講義は、「保育士としての在り方」服務接遇、保育者として働くモチベーションの高め方等、一人一人が積極的に参加していけるよう、土方先生により声掛け、指導を頂き、コミュニケーション力がグンと高まりました。

四月から研修生の皆さんの力が大いに発揮できますように陰ながら応援しています。終わりに、講師の先生方や実行委員の皆様に協力いただいた皆様のおかげで新採研が無事に終了できましたことをここに感謝申し上げます。

実行委員長 一番町保育園 海野美代子

月 日 令和五年二月二十一日～二十二日
会 場 静岡県立三ヶ日青年の家
参加者 九十五名

新型コロナウイルス感染症対策の為、ZOOMや通いの研修となっていた新規採用予定職員研修会が三年振りに三ヶ日青年の家にて一泊二日の日程で開催となりました。

講義一では静岡県保育士会の吉川慶子会長より「保育者としての自覚と責務」というテーマで講義をして頂きました。メディアでも取り沙汰された事件・事故後、改めて社会から求められる保育の質は専門職としての自覚と責任、基本姿勢について学ぶ機会となりました。保育・保育者の質は専門的知識+気づきのセンスと豊かなバランスの取れた感性を磨く日々の努力が必要であると講義を頂き、気持ち引き締まる内容でした。

講義二では静岡県保育連合会の土山雅之会長より「保育所・認定こども園の役割と使命」というテーマで講義を頂きました。現在置かれている保育の動向では「少子化対策」から「子ども・子育て支援」に重きがおかれ今後より一層の保育者の質の向上が求められていることを学びました。

午後からは恒例となっている施設周辺のウォークラリーを行いました。共有の体験を通して、研修のねらいにある保育者同士の親睦を図ることが出来、受講生同士の緊張もほぐれ、以

降の研修会がより活気ある研修となりました。夜には講義三として「子どもと絵本をひらくとき」をテーマに「浜松こどものとも社」安田友昭氏より講義をして頂きました。絵本を選ぶ時のポイントや絵本のストーリーに隠された作者の思いなど知る機会となり、これまでとまた違った絵本の楽しみ方を学ぶことができました。

二日目午前には「現場からのアドバイス」では各班に分かれ、保育者として働くにあたり感じている心配や不安を相談し、より実践を踏まえた意見交換から四月から勤務する準備が整えられたのではないかなと思います。

講義四では「社会人として一番大切なこと」人間関係と含む接遇というテーマで（有）アップハートの勝又ひでこ氏より講義を頂きました。受講生という立場ではありますが社会人として真剣な表情で受講していました。

講義五では「SNS利用時の倫理的な判断と行動の重要性」をテーマに浜松子どもとメディアリテラシー研究所の長澤弘子氏に講義を頂きました。SNSの利用は自己責任で行うものである反面、社会人として園に所属している背景を自覚する必要性や利用のモラルは常に使い方を「考える」ことが重要であることを学びました。

三年ぶりの宿泊研修や研修日数の短縮ということでスケジュール調整など、運営が難しい面もありましたが、皆様方のご協力により無事開催できたことに感謝申し上げます。

実行委員長 豊田みなみ保育園 宮城翔太

新型コロナウイルス対応アンケート結果

五月より新型コロナウイルス感染症が五類に移行しましたこの事について保育連合会所属全園を対象として「コロナ対応アンケート」を実施いたしました。このアンケートは、現在の各園の取り組みやコロナ等に関する対策などを調査したものです。以下アンケート結果になります。

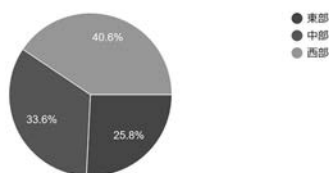
今回アンケートにご協力いただいたのは県内二百五十八園（東部六六園、中部八六園、西部一〇四園）となりました。『五月以降、現在園での取り組みをしているか』については七割の園で「一部内容を変更し、対策は継続中」とのことでした。

隣の小中学校ではまだ出ているから」「集団生活の為、感染症が流行すると蔓延してしまうため」「園医と相談した」等。

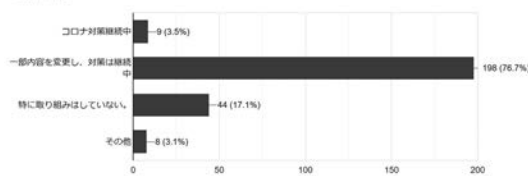
『コロナ五類引き下げに伴い、現在やめている対策をお答えください。』では八割が「給食時のパティーション」六割が「マスク着用」行事等の人数制限については五割近い園がやめていると答えました。理由については、「国基準を参考にした」「保護者の給食試食を再開した」「乳幼児のマスク着用は不要との見解と情緒の発達面も考慮してマスクは外している」「段階的に軽減していく」等。

『マスク着用について、現在の様子は』という問いには、九割がマスクはそれぞれの意

2. 地域
256 件の回答

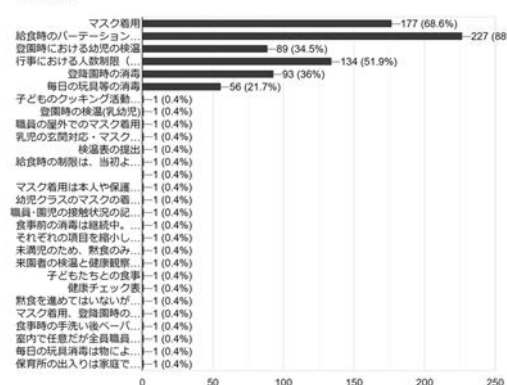


3. 5月からの5類引き下げに関して、現在園ではどの...いますか？また、その理由もお聞かせください。
258 件の回答



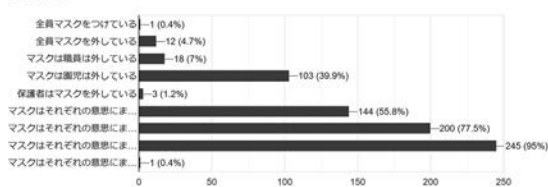
また、その理由については「コロナ以外の感染症対策」五類に引き下げられたから」近

4. コロナ5類引き下げに伴い、現在やめている対策をお答えください。（複数回答可）
258 件の回答

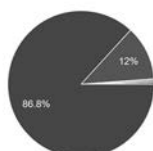


せているとの事、また園児に関しては全体の五割程度がそれぞれの意思に任せているとの

5. マスクについて 現在はマスクについて園ではどのような取り組みをしていますか？（複数回答可）
258 件の回答



6. 今後、新型コロナウイルスの陽性者等が園で出た場合、どのような対策等をしますか？
258 件の回答



- インフルエンザと同様の対策
- 新型コロナとして独自の対策
- 特になし
- コロナ前のインフルエンザと同じ対応、感染者のみ指定期間お休み。
- 「現在コロナ何人」と玄関に表示のみ、もし多数の感染が出た場合はクラス単位で保護者連絡、場合によっては短期のクラス閉鎖もあり得る

事でした。全員マスクを外しているのは、全体の一割程度でした。

『最後に今後、新型コロナウイルスの陽性者等が出た場合、どのような対策をしますか？』という問いには「インフルエンザ同様の対策」が全体の八割、新型コロナウイルス独自の対策が二割程度でした。その他の意見では、「コロナ前のインフル同様感染者のみ指定期間休む」や「現在コロナ何人、と掲示のみし、多数の感染が確認された場合は短期のクラス閉鎖も想定」との意見がありました。理由については、「浜松は公立に準じている」「インフルエンザと同じ対応が現実的」「地区の医師会からインフルと同じ対応となっているため」「完全に終息していないから」「感染力が強く注意は必要だが、五類になり、コロナ独自の対策はとりにくい」等の意見がありました。

北海道交流研修に参加して

認定こども園原町保育園 小牧 萌

六月一日、静岡空港より北海道新千歳空港へ。上空からは澄んだ青空、北海道らしい緑が一面に見え、着陸すると気持ちのいい空気を感ずることができました。またバスの車内から見える菜の花畑や牧草地は圧巻。大自然の中を走り抜けると、今回の視察先、公私連携幼保連携型こども園はやきたこども園に到着しました。

大きな敷地に、広い保育室・園庭で子どもたち一人ひとりがのびのびと過ごしている様子を見ることができました。乳児・幼児が隣り合ったクラス配置になっていたことから、それぞれの年齢の子どもが、上の学年の子を見て学ぶことで、生活性が身に着くのだと思いました。

また、園庭では整備のために草刈りや工事等を行っていました。



それを見た子どもたちが草の匂いを感じたり、工事で使う機械の音や動きを真似したりと次の遊びに繋げている姿を見ることができました。こういったところから、体験が遊びに発展していくことを学びました。

保育士や異年齢での子ども同士の間わりから、乳児期に得るものの大切さを習得できる環境は、子どもたちにとっていい刺激になっていることを感じました。

完全ペーパーレスでネットワーク環境に長けているお話も聞くことができたため今後、参考にして、自園の職員間でも共有していきたいと思いました。

一日目の夕食はサッポロビール庭園内「ヴァルハラ」にて北海道名物のジンギスカンを堪能しました。本場の味を感じながら他園の先生方との情報交換ができ、充実した時間を過ごすことができました。

六月二日。朝からはやきたこども園を訪れ自由に園内を見学。子どもの遊びや保育者とのかわり、環境など様々なことに着目しながら視察し、子どもとかわる保育者に話を聞くこともできました。コーナーの作り方や継続した遊びの導き方等、参考にできることが多くあったため、今後、自身の保育で実践していきたいと思っています。

六月三日、四日は観光名所を巡りリフレッシュすることができました。新しく設立されたボールパーク「エスコンフィールド」では球場内のツアーに参加し、グラウンドを歩いてみたり、プレミアムシートに座ったりと普段

はなかなか経験ができないことも経験することができ、特別な時間となりました。

今回このような機会を与えてくださった皆様をはじめ、快く送り出してくれた職場の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



新規採用職員研修会

期 日 令和五年五月二十三日～二十四日
会 場 静岡県総合社会福祉会館
参加者 七十八名

令和四年度以降の中途採用職員及び令和五年度新規採用職員を対象として、保育施設に勤務する職員としての態度や心構え、また日常勤務に必要な一般常識を習得するために「新規採用職員研修会」が開催されました。研修は、①～⑥までの講義を二日間にかけて行われました。

一日目

講義①は、「保育園・こども園等の使命と役割」というテーマで静岡県保育連合会の土山会長による講義でした。県保育連合会の組織や活動について説明があり、急速に進む少子高齢化の問題や、新型コロナウイルス収束後の対応、また、保育界動向についてお話がありました。

講義②は、「保育者の使命と役割」～あなたにとって一番大切なこと～というテーマで静岡県保育士会の吉川会長による講義でした。保育士会の組織や役割についての説明の後、私たち保育者に求められることは何か、常に学ぶ気持ちを持ち、日々の保育に取り組んでいってほしいとお話しされました。

講義③は、「新人保育者の責任とプライド～責任重大!!かわいい子どもたちの人生が

～」というテーマで小田原短期大学名誉学長・名誉教授の小沼肇氏による講義でした。新聞の記事や専門誌のコラムなどを用いて保育者の責任の重大さをお話しされました。

講義④は、「SNS利用時の論理的な判断と行動の重要性について」スマホ時代の子育てに関わる皆さまへ」というテーマでNPO法人浜松子どもメディアリテラシー研究所代表（理事長）の長澤弘子氏による講義が行われ、SNSを利用するときのメリット・デメリットや、使い方などをお話しされました。

二日目

講義⑤は、「子どもと絵本」というテーマで株式会社駿河こどものとも社取締役高林快晴氏による講義でした。様々な場面での絵本の世界をお話いただき、発達に合わせた絵本の紹介もしていただきました。

午前中最後の講義では、実行委員長の中村章啓氏と共にグループ討議が行われ、自分の長所をグループのメンバーと共有し、明日からの保育に生かすための意見交換などが行われました。

講義⑥「保育者としてのあり方」～服務接遇～というテーマでコーチングネットワーク静岡代表の土方良子氏の講義でした。講義の内容は保育者としての服務接遇についてグループで話し合ったり、コミュニケーションについて学びました。

二日間を通して非常に内容の濃い講義でした。参加者同士でのグループワークでは活発

な討議が行われ、とても有意義な研修となりました。



青年部会全体集会・研修会

期 日 令和五年六月二十八日
会 場 静岡県総合社会福祉会館

今年度の青年部全体集会は昨年と同様の現地開催として、会員の皆さんとお会いできるものとなりました。全体集会では、保育連合会副会長の岡田泰稔先生より、コロナ禍における保育業界についてや青年部会の成り立ちまた、一般社団法人となった保育連合会等のお話をいただきました。また部会長の後藤先生からは、「持続可能な組織として皆さんと一緒につくっていききたい」、青年部会は「サードプレイス」という考えを提唱、職場でも家庭でもない第三の場所をつくっていききたい等のお話がありました。また今年度から青年



部会総会は全体集会と改めました。全体集会後の研修会では昨年度大変好評をいただきました今年度もご講義いただきましたPeace代表の石坂秀己先生に「ディズニー人が育つ

風土作り」をテーマにご登壇いただきました



石坂先生は、東京ディズニーランドのアトラクションの責任者として約十五年勤務し、接客研修の基礎を築き上げ退職後、アミューズメント業界の人

材派遣会社にてさらに実績を積み。これまでの豊富な経験を活かし、「接客基本研修」「コミュニケーション研修」等を行っています。人材育成の話の中で、「わかりやすいことばを使う」「ほめる認める風土」をつくる事を前提条件として、できるようになることよりも「行動する「軸」をつくる事。たいせつなのは、関係性の構築という冒頭の話から園だけではなくこれからの組織、青年部会としての在り方にも共通する話だと思いました。今回の研修では前回よりもバージョンアップした研修ということで、より実践的な講義をテーマに、グループワークを主軸として「他

人をほめる」「評価する」方法をみなで考える、考えることで体験することで実になるそんな研修でした。二時間弱の講義でしたが始まりから終わりまであつという間で、特に、人を育てる方法はまさにこれから園内でもリーダー的ポジションにいる保育士の先生方にとっても納得のいく話ばかりだったように思えます。研修終了後の顔つきも皆さん笑顔で帰られた所などは研修の充実さをものがたっているように思えました。最後にコロナも終息に近づき、通常状態へともどつつある今、どこの組織も帰属意識の低下を感じています。そんな今だからこそ、選択肢をひろげ、青年部会は、会員の先生がたにも、愉しき嬉しきをもっと発信し共有すること、それこそが、持続可能な組織として大切なのだと改めて感じました。



令和四年度民間園長研修会

期 日 令和四年十一月二十一日～二十二日
場 所 ホテルクラウンパレス浜松芙蓉の間



令和四年度民間園長研修会を浜松市にあります、ホテルクラウンパレスにて二日間に渡り行いました。一日目は土山会長の挨拶から始まり、静岡県健康福祉部こども未来課

長 鈴木安由美氏をお招きし、「保育行政の動向について」をテーマにお話しを頂きました。続いて、白梅学園大学子ども学部教授 増田修治氏より「保育園と小学校の接続を考える」図形認知と言語能力を育てる」をテーマにお話しを頂きました。二日目は元プロ野球審判員 山崎夏生氏より「一途一心の野球道（みち）」をテーマにお話しを頂き充実した研修を二日間に渡り行うことが出来ました。



令和四年度臨時総会及び施設長研修会

期 日 令和四年十二月九日
会 場 清水マリナート



静岡県保育連合会の一般社団法人化について

の臨時総会が行われ、その後施設長としての役割を再認識し資質向上を図ることを目的とした、施設長研修会が行われました。総会では、みどりのもり都田の下原直美園長が議長に選出され、議案である当連合会の一般社団法人化について審議され、満場一致で承認されました。

続いて施設長研修会が行われました。講義①では、「職員の安全対策を下支えするマネジメントの大切さについて」というテーマで株式会社保育安全のかたち代表取締役の遠藤登氏よりご講義いただき、講義②では、「乳幼児期の子どもの人権と性教育の課題」性被害防止のとりくみを実効性のある内容に」というテーマで立教大学名誉教授浅井春夫氏よりご講義いただきました。続いての講義③では、保育情勢報告について、リモートで会

場を繋ぎ社会福祉法人清隆厚生会 理事長坂崎隆浩氏によりご講義いただきました。

静岡県で発生した通園バスでの事故や不適切保育などの直後の研修会であったため、すべての講義が大変有意義なものとなりました。

令和四年度育児相談研修会

期 日 令和四年十二月十五日
場 所 アクトシティ浜松
コングレスセンター 三二会議室

浜松市にあります、アクトシティ浜松コングレスセンターにて、今年も育児相談研修会を行いました。

東海大学文化社会学部 教授 有沢孝治氏をお招きし、「保育者のコミュニケーションを考える」あたかな人間関係を育むことを目指して」をテーマに二部構成で行い、第一部保育者のコミュニケーションの基本（講義）、第二部として、聴くことを中心とした体験的学び（グループ体験）を行いました。



東部支部

支部長 中里保育園 青野貴芳

一、総会及び施設長研修会

期日 令和五年五月九日（火）
会場 プラサヴェルデコンベンションホールB
講師 鴨野博道 氏

テーマ 「兵庫県灘中・灘高等学校教頭としての灘校―」

二、中堅保育者研修会

期日 令和五年八月二十三日～二十四日
会場 箱根の里・プラサヴェルデ四〇二
講師 日本赤十字社静岡支部
テーマ 「乳幼児の心肺蘇生」

「災害時における乳幼児への対応」

講師 川村結里子氏（ベップトーク普及協会）

テーマ 「やる気を引き出すベップトーク」

講師 小野博文 氏（スマイルワン代表）

テーマ 「笑いの力」

講師 加藤聖司氏（沼津市みくに保育園長）
テーマ 「グループ討議～自身のストロングポイントを生かそう～」

三、新規採用職員研修会

期日 令和六年二月二十七日～二十八日
会場 三島市立少年自然の家

講師 未定

四、保育の日研修会

五、民間部会

六、行政部会

七、青年部企画研修会

中止

未定

未定

中部支部

支部長 なかよし保育園 北山茂

一、総会及び施設長研修会

期日 令和五年五月十七日（水）
会場 静岡県総合社会福祉会館
講師 常葉大学短期大学部保育科

テーマ 「身近な生活環境の中で子どもたちに体験してほしいこと」

二、職員研修会

期日 令和五年六月七日（水）
会場 日本平動物園
講師 日本平動物園飼育係長 岡村創 氏
テーマ 「五感を磨き、高い感性の保育者を目指して」

「五感を磨き、高い感性の保育者を」

三、中堅保育者研修会

期日 令和五年九月十三日（水）
会場 静岡県総合社会福祉会館

講師 保育環境アドバイザー 井上さく子 氏

テーマ 「子どもから学ぶ保育を語り合おう」

四、フォロアアップ研修会

期日 令和五年十月二十五日（水）
会場 静岡県総合社会福祉会館

講師 コーチングネットワーク静岡 代表 土方良子 氏

テーマ 「エール研修」がんばっている君たちへ

五、新規採用予定職員研修会

期日 令和六年二月十四日～十五日
会場 焼津青少年の家

西部支部

支部長 ルンビニこども園 岡田泰稔

一、総会及び施設長研修会

期日 令和五年五月十六日（火）
講師 富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊
講師 早川隆志 氏

テーマ 「大人にこそ必要な子ども力＆遊び力」

二、中堅職員研修会

期日 令和五年六月二十一日（水）
講師 医学博士・タレント 佐藤弘道 氏
テーマ 「子どもたちの笑顔のために～十年先の健康と運動のすすめ～」

三、男性職員研修会

期日 令和五年八月四日（金）
講師 サイボウズ(株)営業本部
内容 営業人材開発部 部長 勝沢賢一 氏
内容 保育のプロとして信頼を勝ち得るために必要なスキルについて

四、小児医療研修会

期日 令和五年九月頃
講師 未定

内容 感染症について

五、初任職員研修会

期日 令和五年十一月二十九日（水）
講師 ケロポンズ

内容 保育セミナー

六、新規採用予定職員研修会

期日 令和六年二月二十一～二十二日
会場 三ヶ日青年の家

各支部だより

～活動の報告と計画～

予算対策委員会

委員長 中里保育園 青野貴芳

昨年度は、県内の事件・事故に揺れた一年でした。保育施設で問題が起こるたびに、制度の不備が指摘されてきましたが、昨年度は、こうした声が、メディアなどでとりわけ大きく取り上げられました。このような制度の不備は、財源不足を理由に、年中行事のように棚上げされ続けてきましたが、その結果、劣悪な人的環境が数十年に渡り放置され続けることになってしまいました。

ようやく国は配置基準を改善する方向で検討を始めましたが、依然として十分なものではありません。保育連合会は、特に配置基準の改善に重点を置き、次の八項目を静岡県に対して要望します。

①職員配置基準について、特に、(1)四・五歳児の配置基準(2)乳幼児保育事業の充実に ついて(3)開所時間や利用児童数に対する配置基準(4)調理員の配置基準(5)延長保育事業への補助について(6)「気になる子」の増加、の観点から改善を要求します。②キャリアアップ研修受講定員数の増加について要望します。③園児数の減少、定員割れへの対応について要望します。④物価高騰への対応について要望します。⑤保育士確保及び定着促進のための環境改善支援策を要望します。⑥年度途中入

所サポート事業の継続について要望します。
⑦南海トラフ地震等大震災に対する安心・安全な施設の充実が図られるよう要望します。
⑧産休等代替職員雇上事業の補助基準額の増額について要望します。

加えて、保育三団体の予算対策活動に参画し、国に対して要望をしています。

研修委員会

委員長 桜木こどもの森 岡田博次

今年度は感染症への対応がようやく変化したことで「学び」と「交流」のできる参集型の研修会を中心に計画することができました。コロナ禍で培った力も活かしつつ、引き続き保育の質の向上に寄与するべく進めて参りますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

新採研修(五月)では、約八十名の参加者が、保育士(所)の使命と役割、SNS利用時の倫理的判断、接遇等について学びました。所長研修会には、馬場耕一郎氏(こども家庭庁教育・保育専門官)をお招きし、子どもの安心安全を守るための取り組みと令和五年四月に発足されたこども家庭庁についてご講義いただきました。

今年度内に計画されている研修会は次の通りです。

- 育児相談研修会(十一月一日)
- 民間園長研修会(十一月二十・二十一日)
- 施設長研修会(十二月十九日)
- 新規採用予定職員研修会(二月)

キャリアアップ委員会

委員長 聖心保育園 吉川慶子

令和五年度より、処遇改善加算Ⅱの認定に当たり、副主任・専門リーダー等の加算対象職員が要件を満たす研修を一定時間以上受講していることが段階的に必要になり、保育士等キャリアアップ研修への申し込みも増加することが見込まれますが、受講定員にも限りがあり希望通りにはいかないのが現状です。今後も県担当課と検討を進めていきます。

また、今年度より、認定こども園(全類型)においては、静岡県保育連合会及び静岡県保育士会(全国保育士会・地区保育士会含む)の自主研修が静岡県の認定を受け処遇改善等加算Ⅱの研修要件に該当する研修となりました。各施設におかれましてはそれぞれの状況に合わせ、要件に必要な研修受講を進めていただけますようお願いいたします。

今後も質の高い研修の提供ができるよう協議をまいりますので、会員の皆さまには重ねてご理解とご協力をお願いいたします。

海外交流委員会

一番町保育園 海野美代子

感染対策も緩和され、今年は国内ではあります。海を越えて北海道へ視察研修に行っていました。以前、ズームによる施設長研修会でお世話になった、安平町にあるはやきた学園長の井内先生が、視察の受け入れを調整してくださいました。はやきた子ども園は学校法人リズム学園と安平町により運営される公私連携施設保連携型の施設です。また、道路を隔てた向かいに小中一貫義務教育校があります。それぞれICTによる管理が行き届いていて、学校で利用しない施設を町民が利用したり共有したり、こども園も学童・子育て広場・保護者が利用共有していました。管理はICTですが、保育・教育には子どもの育ちとかかわる環境、関わる人々について考えられたものでした。子ども園には、保育だけでなく、園内環境を整えるプロ、アトリエを担当するデザイナーなど、あこがれる姿がありました。長い？と思われる二日間の視察でしたが、あつという間の視察となりました。もちろんこの後観光も楽しみました。

この視察研修で大切にされているところは、保育の場を視察するとともに、その国の教育にかかわる行政との話し合いが中心にあります。お国柄を知り理解するには、その

国の人と出会い、生活を知り、空気感を感じること大切な研修です。世界各地での感染が収まり、従事されている方、病の後遺症にいらっしゃる方が癒され、訪問がかなうことを祈るばかりです。

少子化対策委員会

一番町保育園 海野美代子

保育所・認定こども園利用者以外に、子育て支援への関心と理解を求める啓発活動を行った場合の経費（一事業五万円）を助成する「子育て支援啓発活動事業助成金制度」を実施しています。これは複数の施設や団体で行う事業であれば、民間園や公立園の区別なく、また、保護者会等の団体でも助成対象としています。各支部三事業（十五万円）の予算を組んでおりますので、この助成金を活用したい団体は、各支部事務局にご連絡ください。

啓発品については「あいあいホットマーク」のクリアファイル（こちらは、保護者の皆さんへの年度当初の書類配布や、入園案内などに添えてお渡しするなど活用していただいています。）その他、ピンバッチ、付箋セットがあります。啓発活動の助成が幅広く行えますよう、皆様のご協力を宜しく願います。

青年部会

部会長 すみれ認定こども園 後藤恭佑

もうそろそろ研修会やイベントも普通の状態に戻りつつありますが、新たにリモート等の方法も知り、益々青年部会の活動も活発になっていきます。幼児教育、人材確保、待機児童問題等々、問題は山積みですが、アンテナを張り情報過多の時代でも何が大事でどんなことが起きているのかを敏感にとらえ、皆さんと共有できればと思っています。青年部会は「サードプレイス」第三の場所ということをテーマに様々な取り組みや交流をしていきます。実行可能な組織として、引き続き会員の皆様にはご理解とご協力をお願いいたします。

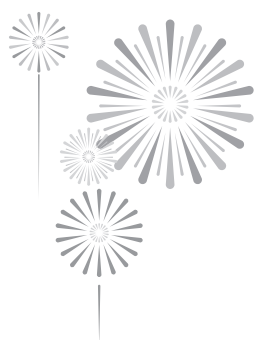
実績報告

六月二十八日

○令和五年度 青年部全体集会

七月十三日

○令和五年度 青年部公開保育（東部支部）



〔全私保連推奨〕各種団体保険制度



有限会社ゼンポ



公益社団法人
全国私立保育連盟



東京海上日動

ほいくのほけん・こどもえんのほけん

保育施設向け 4月1日～1年間（中途加入可能）

「園賠償責任保険（新型コロナウイルス等対応費用補償特約付帯）」
「園児団体傷害保険（学校契約団体傷害保険）」など、保育施設における最大リスクを補償する1番の主力保険制度です。

やくいんのほけん

社会福祉法人向け 8月1日～1年間（中途加入可能）

Web
加入
可能

社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクやマスコミ対応費用等のレピュテーションリスクに加えて、雇用関連トラブルによる法人への賠償リスクもオプション付帯可能な保険制度です。

えんじのほけん

在園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

Web
加入
可能

「園内外問わず24時間お子さまをお守りする傷害保険」「扶養者に万が一の場合の育英費用補償」など手厚い補償内容に加え、一般的な保険商品と比較して約65%の割引となっているため非常に割安な保険制度です。

しょうがくせいのほけん

卒園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

Web
加入
可能

24時間のおケガ等からお守りにすることに加え、自転車条例で義務化されている個人賠償責任保険など卒園後のリスクを補償します。本商品も一般的な保険商品と比較して約30%の割引となっているため割安な保険制度です。

取扱
代理店

有限会社ゼンポ

TEL：03-3865-3881
FAX：03-3865-2806



引受
保険会社

東京海上日動火災保険株式会社

担当課社：公務二部 文教公務室 TEL：03-3515-4134

このチラシは、このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険・レピュテーション費用保険（レピュテーション費用特約条項付 費用・利益保険）・雇用関連賠償責任保険の概要・団体総合生活保険（傷害保険）の概要についてご紹介したものであり、全ての事項を記載しているものではありません。保険の内容は各保険制度のパンフレットをご覧ください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。

連絡先



公益社団法人全国私立保育連盟指定／東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

TEL 03-3865-3881
FAX 03-3865-2806

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館4階

子どもの育ちが見えれば、明日の保育がもっと豊かに！

全国私立保育連盟推奨（総代理店）

導入費用
無料



きっずノート

「きっずノート」は、文字だけでは伝えきれない園での豊かな活動、子どもたちが自ら学び・育つ姿を「見える化」するアプリです。

保育者の
業務
省力化

子どもの
学び・育ちの
見える化

緊急時の
連絡手段

正式利用お申込みの全施設

最大9ヵ月

利用料無料！

契約更新後も料金そのまま！

年間一括利用料6万円

利用しやすい価格になりました！

ひと月あたり 5,000円（税別）

※ただし、事業者利用規約の定めにより、将来において利用料金が変更になる可能性はございます。

詳しくはお問い合わせください。

<担当者：菅沼、佐藤>

印刷物からノベルティまで

おまかせください。

チラシ

パンフ
レット

冊子

メモ帳

ふせん

カレンダー

紙加工品のことなら大日三協へ

大日三協は、FSC 森林認証 (COC 認証) を取得し、
森林認証紙の取り扱いをしています。



大日三協株式会社 静岡県静岡市葵区流通センター12 番1号
TEL:054-265-5501 FAX:054-265-5502

さまざまな危険からお子さまをお守りする

2023年8月現在の内容です。

『キッズガード』(園児総合保障制度(こども総合保険))

AIG損害保険株式会社

日々大きく成長されるお子さまたちの行動には予測できないことも多く、何かとお心づかいのことと存じます。いつ、どこで何が起こるのか予想もつかない事故の、確かな“おまもり”として本制度をお届けいたしております。

S-230555(202408)

静岡支店	〒420-085 静岡市葵区黒金町20-1 富士火災静岡ビル5階 TEL: 054-255-5141
浜松支店	〒430-771 浜松市中区板屋町111-2 浜松アクタワー15階 TEL: 053-454-0321
沼津支店	〒410-080 沼津市大手町2-10-14 TEL: 055-963-8081

未来は、あそびの中に。



JAKUETS



さあ、ワクワク探しの旅に出かけよう！ www.tobutoptours.co.jp



“Warm Heart”
～ありがとうの連鎖を～



東武
トップ
ツアーズ

静岡支店

〒420-0859

静岡県静岡市葵区栄町3番1号

あいおいニッセイ同和損保静岡第一ビル10F

TEL.050-9001-9697 FAX.054-252-9509

OA機器・システム商品・オフィス家具

経費削減のお手伝い

見積・相談無料



株式会社 Net



Net 沼津

検索

TEL 055-939-6100

沼津市米山町 12-15

PAL ANGEL
園児支援システム

子ども・子育て支援制度対応・ICT補助金対象システム

「PAL ANGEL (パルエンジェル)」

ICカードで簡単操作の登降園管理、園務日誌、保育計画、報告書等、多様化する 保育園の
事務作業をサポートいたします。クラウドサービスで安心です！

園の紹介、情報公開は簡単便利な
ホームページで！
「らくらく更新web」

苦情解決、事業報告、行事予定、アルバム等が
園のパソコンで簡単に更新できます！

簡単操作のメール配信システム
低価格で多機能！
「チェックインシステム」

緊急連絡他、アンケート調査、質問回答集計、閲
覧状況、受信状況も把握できます！



株式
会社

データサービスセンター

〒411-0912 駿東郡清水町卸団地63-2
TEL:055-972-7717 FAX:055-976-1057

<http://www.dataeast.co.jp> E-mail:h-sanada@dataeast.co.jp

しずおか保育士・保育所支援センターでは、 保育の仕事を探している方と 人材を求めている保育所との 橋渡しをします。

求職者との個別相談、園の見学や体験事業、就職フェア
やセミナーなどを通して仕事の紹介をしています。



静岡県・静岡市
委託事業



ネット経由による
求人登録のメリット

全国の貴園・貴事業所に興味のある方が求人を
24時間いつでもみることができます。



福祉のお仕事
ホームページ

「福祉のお仕事」からインターネット
経由で求人の申請ができます。

<https://www.fukushi-work.jp/>



お問い合わせ

福祉人材無料職業紹介所・厚生労働大臣許可



社会福祉法人
静岡県社会福祉協議会

中西部

静岡県社会福祉人材センター
しずおか保育士・保育所支援センター

TEL. 054-271-2110

- ☎ 420-0856 静岡市葵区駿府町1-70
静岡県総合社会福祉会館「シズウエル」3階
- 🕒 【開所】月～金曜日(8:30～17:00) ※祝日除く

東部

静岡県社会福祉人材センター
東部支所

TEL. 055-952-2942

- ☎ 410-0801 沼津市大手町1-1-3 沼津産業ビル2階
- 🕒 【開所】月～金曜日(8:30～12:00/13:00～17:00)
※祝日除く



しずおか保育士・
保育所支援センター
ホームページ

編集後記

二期目に突入しました。まだまだ
未熟ですが精一杯お伝えできるよう
頑張ります。

御殿場市 すみれこども園 鷹野一広

子ども達の元気な明るい笑い声が
満ち溢れた日常が戻ってきた。

御殿場市 神山認定こども園 本崎泰人

暑い、暑い、とにかく暑い、この暑さを熱さに
変えて今年もよろしくお願ひします。

富士市 すみれ認定こども園 後藤恭佑

いきなり暑くなりましたが、バテずに頑張りたい
と思います。

湖西市 真愛三ツ谷こども園 松浦弘太郎

今回、初めて広報委員となりました。精一杯や
らせていただきます。おねがいします。

浜松市 まつのき保育園 竹内映晴

今年度初の蝉の声をききました。夏が始まった
合図ですね。主役は誰だ？

島田市 認定こども園 エルフのゆめ 平野貴久

初めて広報委員をさせていただきました。よろし
くおねがいいたします。

静岡市 麻華こども園 中原美華

久々に広報委員に復帰しました。また一から頑
張ります。今期宜しくお願ひします。

静岡市 麻機保育園 鈴木克明

今まで読ませていただいていた立場から、広報
委員として取材・編集参加！多くの力が集まって
形になる大切さを実感。頑張ります。

磐田市 中泉保育園 伊藤夫美

嫁が倒れ、ワンオペ育児父子家庭を体験中です。

静岡市 ほのぼの保育園 坂井玄気

楽しい紙面になるように頑張ります。よろしく
お願ひします。

静岡市 城北保育園 松田剛

北海道交流研修



「ほいく静岡」原稿写真募集中

保育実践・研究の紹介や育児相談・講座の紹介など奮ってご寄稿下さい。

✉ 投稿先 静岡県保育連合会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1番70号

TEL : 054-251-8873